

令和3年度 岡山県文化振興審議会

日 時：令和4年2月21日（月）13時30分～15時

場 所：おかやま旧日銀ホール（ルネスホール ワークルーム）

1 開 会 環境文化部長あいさつ

2 議 事

- ・令和3年度県実施主要事業について
- ・おかやま文化振興ビジョンの進捗状況について
- ・令和4年度重点事業について

【事務局が資料に基づき説明】

【議長】

- ・県立美術館は、日本博物館協会のガイドラインを守り、地方の博物館のコロナ対策における大きな共通項として、どのレベルでどう対応するかや住所・氏名を書いてもらうことで、来館者に何か起きた後の追跡調査ができるカードを早期に導入するなど、コロナ禍の先頭に立ってきた。

【委員】

- ・学校教育における文化活動の充実はとても大事である。家庭によって子供の受けられる教育の差が大きい時代になっているが、学校教育の中で最低限文化に触れる機会を作ってもらっていると思う。今後もさらに機会を作ってもらえるとありがたい。
- ・文化による連携・交流は重要であり、例えば絵なら、音楽とのコラボレーションなど、異分野の文化との交流を楽しんでもらうことができれば、絵しか興味がなかった人に、音楽にも素晴らしいものがあるという気付きにつながるのではないかと。さらに推し進めていただきたい。

【委員】

- ・オーケストラの鑑賞機会の提供について、客席を一席ずつ空ける取組は様々なホールで定着してきているが、その分収入が半減し、開催すればするほど赤字になり皆さん苦慮している。県が文化振興事業としてけん引してもらえると勇気づけられ頑張れる。
- ・令和3年度に行われた吉備中央特別公演のロマン高原かよう総合会館や、美作特別公演の美作文化センターも素晴らしい会場である。このリーズナブルな料金による鑑賞機会の提供を続けてもらいたい。

【委員】

- ・文化事業が1回、2回と飛ぶと、作り上げていく人達の意欲が削がれることもある。
- ・行政も責任が伴うから無責任にはできないが、今年はこれまでと同様に何でも中止するのではなく、知恵を出し色々なことをやろうと思えばできるのではないか。主催者と一体となって考えながら、文化事業をできるだけ実施する方向で取り組んでもらいたい。
- ・2月15日に開設したポータルサイト「マイニングおかやま」は、幅広い人達に、岡山の文化事業を知ってもらうことができる取組だ。このサイトを一層充実させ、強力に進めてもらいたい。
- ・本来であれば様々な事業に参加するという非日常の暮らしが文化そのものであり、その豊かさは地域の豊かさに繋がる。文化事業をもっと推進していくことが、コロナ時代を経ると一層重要ではないか。
- ・文化は、ネットなどバーチャルの中にもあるが、実際に生で触れたり、見たりするなど、五感を通じて感じるものが本来の姿であり、今後一層重要となる。AIやテクノロジーが発展すれば発展するほど地域文化の重要性が増す。

【議長】

- ・特に文化の催し物は、現在のような問題が覆いかぶさってくると途切れてしまうことが多くある。どうしようかと迷った挙げ句結局中止してしまい、期待している人は、途切れたらもういいとなってしまう。中止して、次の年はその倍に増えるのかと期待したらそうでもない。そういう点で途切れないようにすることが重要である。

【委員】

- ・文化や芸術がどういうもので、特に県の事業として取り上げる文化についてどう捉えたらいいのか。文化の発展、振興について、どう考えていけばいいのか。
- ・様々なイベントが、コロナ禍で延期や中止、形を変えての実施とかなり影響を受けている。
- ・イベントとして行うことができないものは、どう考えるのか。例えば、「ぼっけー」などの方言や地元の食材、食べ物の調理の仕方なども広く文化として捉えてよいのか。県の事業として取り上げるのは難しいかもしれないが、貴重なものであり、事業の対象となり得るのかを勉強していきたい。
- ・多様な県民の方々が文化事業に関わっていくことを検討し、推進している。その中で、社会的マイノリティの方、障害のある方の参加は、色々工夫し実施している一方で、グローバル化、国際化といわれながら、多様な文化的背景、民族的背景を持っている人々への視点が少し弱い気がする。国際交流と

いうと、欧米に偏る傾向があるが、県内にはベトナム人が一番多く、中国人も多く住んでいる。色々な意味でマイノリティの方が関われる仕組みを考えているのか、これから考えていく必要があるのかを知りたい。

- ・文化というのは、特定の人のものではなく、これまで事業やイベントに全く関心や関わりがなかった人々がどのようにして関われるか、参加していけるか、参加したいと思えるかを一緒に検討していきたい。

【議長】

- ・芸術や文化がどんどん洗練化されていくと、岡山県の文化の魂、我々の生き方そのものが何かということが欠落していつていることは事実である。
- ・異種多様、色々な人が文化に関わる必要がある。現在のような混乱した時代には、一部の進んだ人だけでなく様々な意見を集合させて新しい文化が生まれていくのだと思う。

【委員】

- ・特に音楽や演劇でパフォーマンスをしている人達にとっては、コロナ禍である現代は大変な時代だ。
- ・天神山文化プラザは、2、3年前に50周年を迎え感慨深い。かつての岡山県総合文化センターの頃は、図書館、情報センター、展示・展覧会の場等の機能を持つ総合的な施設だった。現在、県立図書館、県立美術館ができ、天神山文化プラザは、情報センター、そして県民のための展示空間として非常に大事な拠点だ。
- ・県民が自由に使える天神山文化プラザのような施設は、他県にはほとんどない。出入りが自由にでき、土曜劇場、音楽ホール等、県民が県民の為に利用できる場所であり、県民の文化のためにあるのが天神山文化プラザである。
- ・文化連盟の下に芸術アソシエイツができ、この2、3年で新たな活動が始まった気がしている。
- ・西高東低という見方や、北の方には文化施設が少なく南の方には色々あるということはあるが、この芸術アソシエイツによって少し広がりが出てきた。国民文化祭以降、岡山県の文化の流れが良くなった気がする。
- ・天神山文化プラザを、個人が別の利用の仕方をしようという動きもあったが、正しい文化を思う人達に任せられる行政の方向性であってほしい。
- ・アートイベントを県民ではなく自分のエゴのためにすることがないように、気をつけてディレクターを選定してほしい。
- ・県立美術館が努力しているのを感じる。先日の「修善寺物語」も、ある地域に集まった人々の交流の展覧会で、気持ちの温かさが伝わり素晴らしかった。これからも面白いものを実施してほしい。

【議長】

- ・昔のことを知っている人がいるということは、その当時の構想を思い出す機会を与えてもらえるのですごく大事だと思う。
- ・文化や文化財は本来昔のものであり、その時代のことを知ろうと思ったら、それが作られた当時の人に話を聞くしかない。
- ・しかし、社会がデジタル化、アナログ化に分かれてしまっている現代では、新しい価値観のようなものに期待をしまいがちで、これまでの流れが変な方向に向かってしまうことはあると思う。
- ・社会がデジタル化に向かう中、どのようにしたら人が幸せになれるかを考え、歴史や文化を忘れないようにしながら新しい文化も作ってもらいたい。

【委員】

- ・全部の項目が並列化しており、強弱がない。2、3年活動を見ないと後の手立てが考えられないものもあれば、少し工夫すればもっと面白くなるのではないかというものもある。差別化をしていかないと、全て同じ力でバックアップすることは難しい。
- ・例えば、県立美術館の高木聖鶴さんの書道展は、高木さんが書いた物を見せるだけである。1つの部屋のフロアが使えるなら、墨が落ちてもいいように下敷きをし、子供達がそこで書を書き、高木さんの書の中で筆を執ることを経験させれば、書の文化財とこれからの人材とを繋ぐ遊びができる。高木さんのビデオや写真を合わせれば、高木さんが蘇って教えてくれているような雰囲気を作れるかもしれない。
- ・力を入れるものや、皆のアドバイスを取り入れて行うものなどを幾つかピックアップしても良いのではないか。
- ・事務局の中で議論し、子供や様々な活動グループと繋がって、少し遊びを入れてもらいたい。

【事務局】

- ・今回、高木聖鶴展の中で、子供向けではないが、高校生に大きな筆で書いてもらう企画がある。実際にできるかどうかは別だが検討をしているところである。

【委員】

- ・そういうことを是非お願いする。
- ・話は変わるが、音や方言など、様々なものを取り上げた「備中国のくらしと音」については、イベントとしてとても面白いと思うが、実際に行ったのか。反響はどうだったか。

【事務局】

- ・ 県民文化祭の一環として行ったもので、今年度は備中地域を中心に音をテーマに様々な催しを行った。大々的に多くの人を呼ぶものではなく、手作りの小規模なイベントを幾つも実施するもので、老若男女、色々な年齢層の方が参加し楽しんだ。募集してすぐ定員に達したのもあったと聞いている。

【委員】

- ・ デジタル検索で、様々なことが知識としてすぐ入る時代になったが、それで全て分かったという考えは大間違いである。リアルにそこに行かないと分からないことは一杯あり、真実はそこにある。音楽のCDやレコードを聴くことは、素晴らしい感性を豊かにしてくれるが、実際に演奏会やコンサートに行くことで、様々なことが体感できて熱量を感じられる。熱量を感じることで、暮らしを豊かにすることが文化である。
- ・ 豊かな暮らしとは何か。便利だったら豊かなのか。そうではない。心を打つ、気持ちが動く、気持ち良い、気持ち悪い方へ動いてもまた気持ち良くなるのが文化である。全人格をその一点に集中させ、作品を見て熱量を感じるのが文化である。デジタルは文化ではない。実際にやって欲しい。
- ・ 県内には、地域文化や伝統文化がたくさんあり、皆で集まって一緒にやろうというお祭りなど、プラスαのもので暮らしが豊かになる、そういう郷土を作りたいし、岡山はそういう地域であって欲しい。
- ・ ポストコロナ時代をどう作っていくかを皆で考えなければいけない。若い人達に、ネットからの情報のみではいけないということを伝え、本当の文化を皆で作って、新しい文化を継承していくことが大事である。

【事務局】

- ・ 今日皆様から頂いたご意見は、そもそも芸術文化とは何かという話から、岡山らしさを踏まえた文化を考えるべきということ、文化の熱量などをリアルに感じるものが大切というものだった。
- ・ 文化芸術とは、国の法律の中でカテゴリーが書かれているが、本県が行っているものは生活文化なども広く対象にしており、線引きをすることは基本的にしていない。
- ・ また、マイノリティの方についても、県民どなたでも文化活動に参加していただけるよう線引きはしていない。ただ、少し背中を押したり、スポットがあたるようにする必要はあるのかもしれない。
- ・ コロナ禍におけるリアルな文化活動については、様々なものが中止になり、発表する機会も、鑑賞する機会も減ったと言う声を聞いている。施設を休館しなければならないこともあるが、この1～2年で積み重ねてきたコロナ感染対策に対する様々な知見を踏まえ、油断することなく感染対策をしながら

できるだけリアルに触れてもらえるようにしていきたい。国、厚生労働省からの情報も得ながら、中止するのではなく、こういう対策をしたらここまでできるということを紹介し、色々な関係者、施設の皆様と話し合いながら行っていきたい。

3 その他

- ・次期指定管理者の選定結果（犬養木堂記念館、岡崎嘉平太記念館）
- ・令和3年度文化観光推進法に基づく拠点計画の認定について

【事務局が資料に基づき説明】

【議長】

- ・備前長船刀剣博物館「日本刀の聖地」拠点計画が進んでいるが、実施して終わりではなく、観光などにも広げようとしている。
- ・文化財は、過去のものも現代へ応用が利く。済んだら終わりではなく、広く人の目に触れ、違ったものが発明できるような文化であってほしい。

4 閉会 文化スポーツ振興監あいさつ